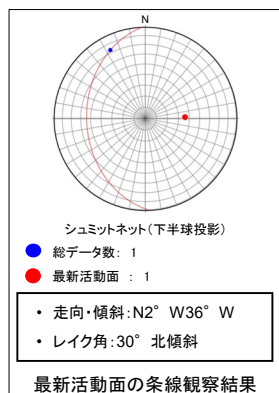


H27-B-3 深度56.69~56.72m 非モデル化破砕部

・H27-B-3のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度56.72m)の変位センスは、右ずれを伴う正断層である。

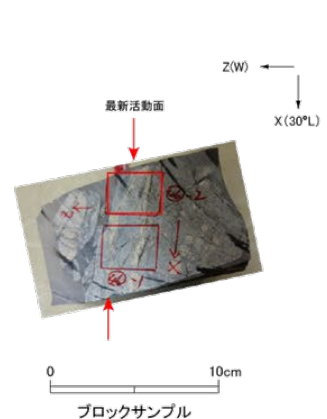
・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が多く認められることから、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)



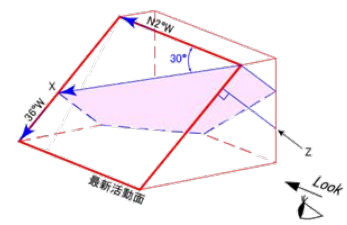
最新活動面

最新活動面の条線観察結果

最新活動面

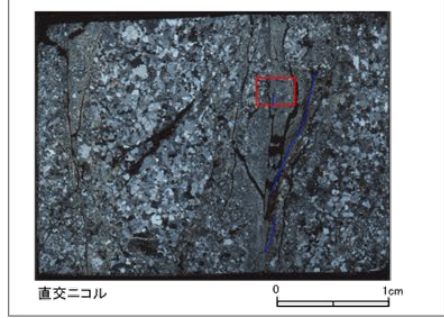
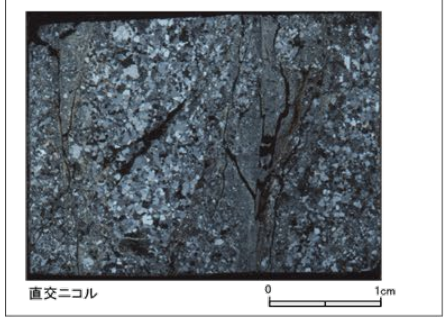
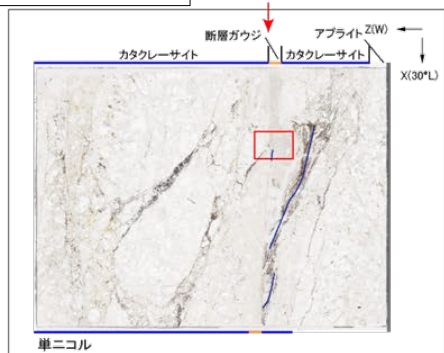
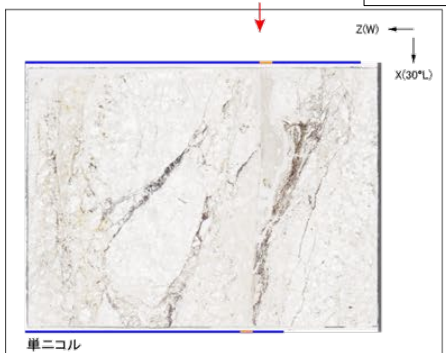


薄片の作成方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向

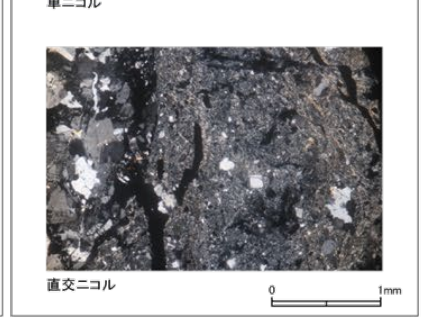


走向・傾斜 N2°W 36°W

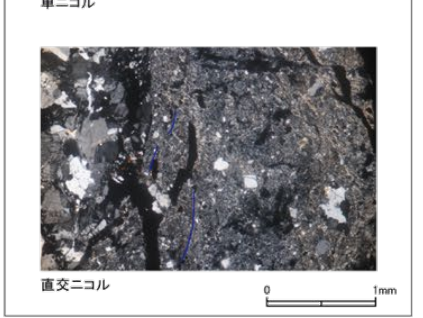
X: 条線方向(下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上側側を正とする)



赤枠内の拡大



赤枠内の拡大

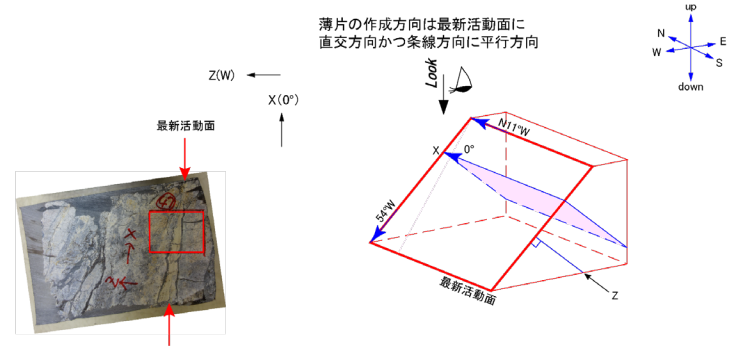
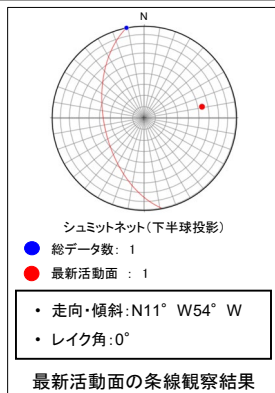


- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

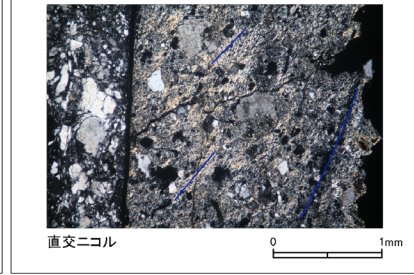
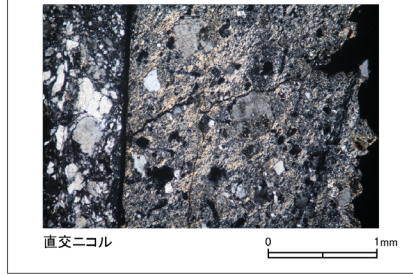
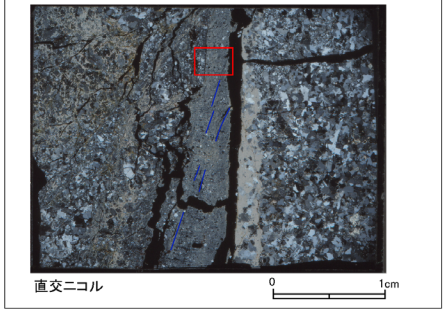
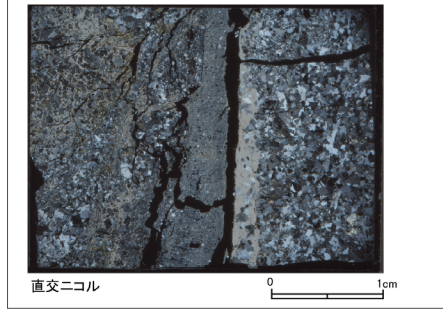
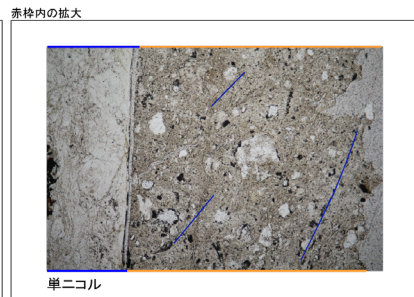
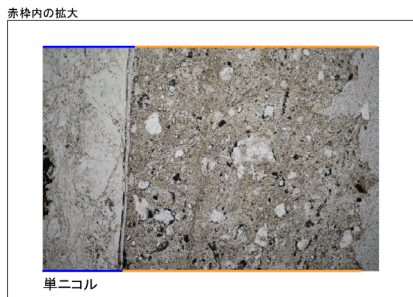
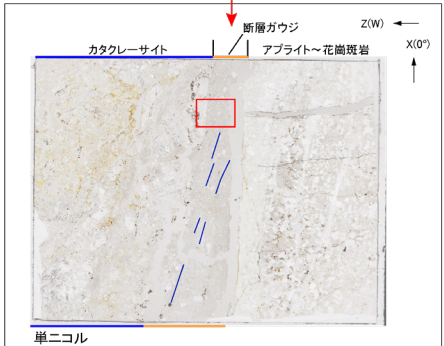
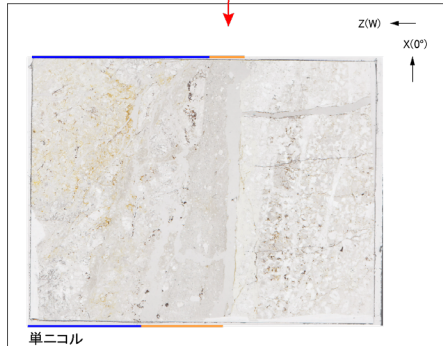
H27-B-3 深度58.89~58.98m 非モデル化破砕部

・H27-B-3のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度58.98m)の変位センスは、左ずれ成分が卓越する。

・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が多く認められることから、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)



走向・傾斜 N11°W 54°W
X: 条線方向(北向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

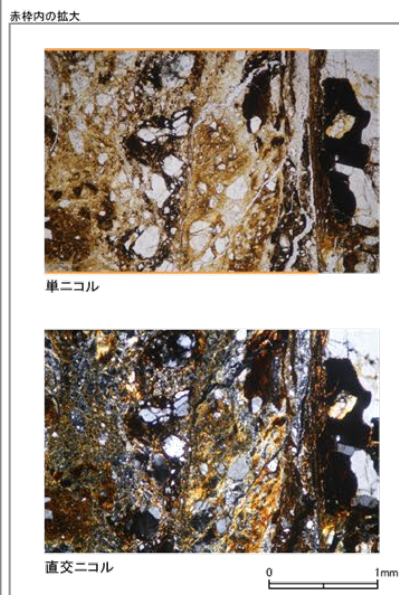
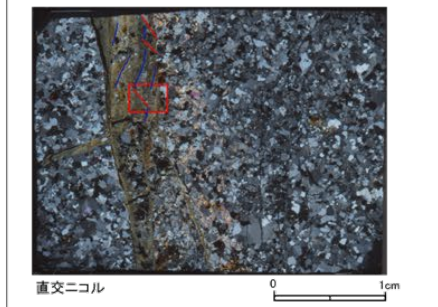
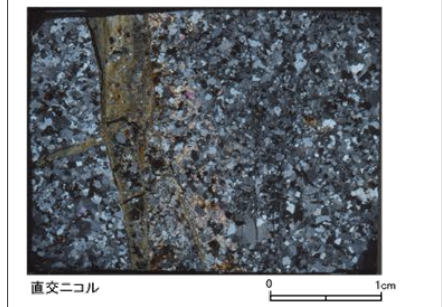
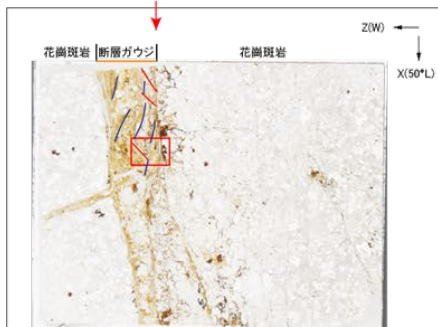
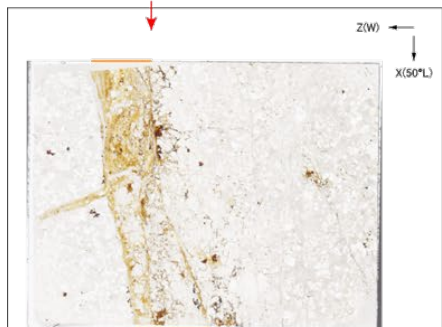
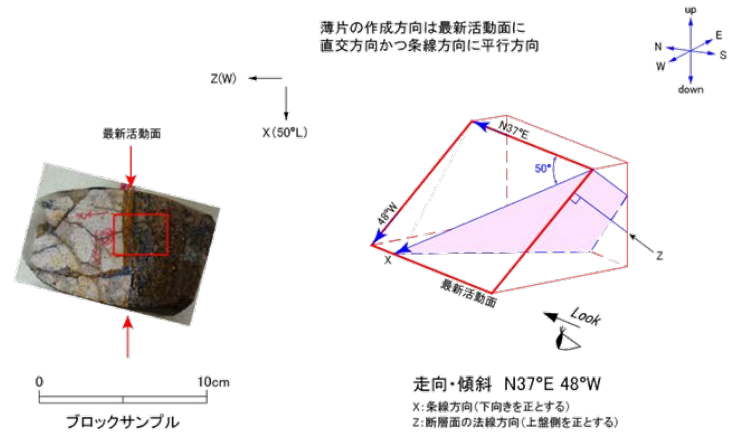
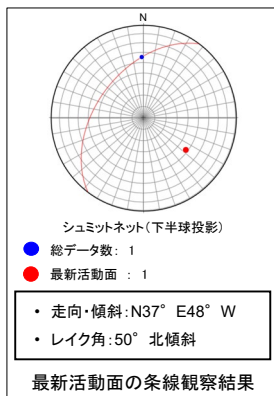


- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

H27-B-3 深度59.69~59.75m 非モデル化破砕部

・H27-B-3のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度59.69m)の変位センスは、右ずれを伴う正断層である。

・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が多く認められることから、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)



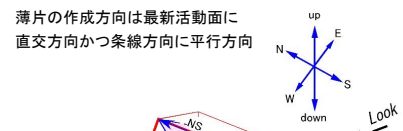
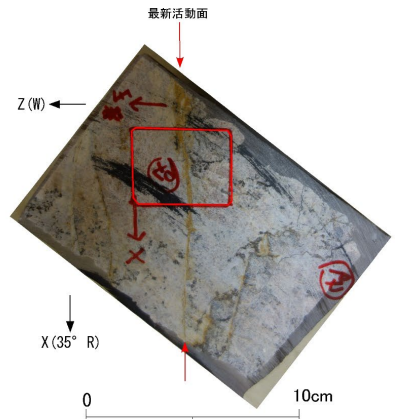
- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

H27-B-3 深度76.59~76.89m H-3c破砕帯

・H27-B-3のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度76.59m)の変位センスは、左ずれを伴う正断層である。

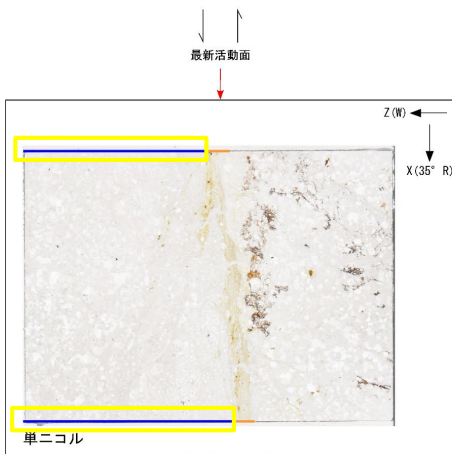
・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が多く認められることから、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)

走向・傾斜データなし

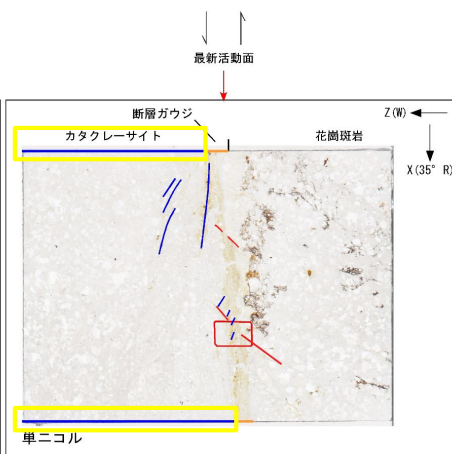


走向・傾斜 N-S走向 西傾斜(仮定)

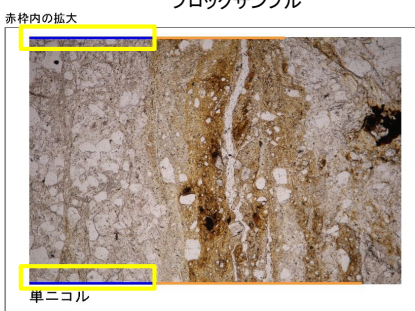
X: 条線方向(下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)



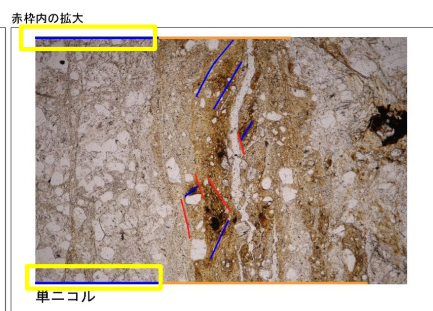
単ニコル



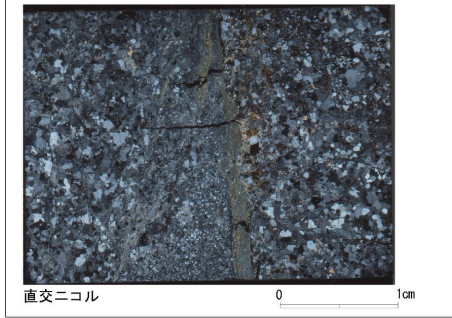
単ニコル



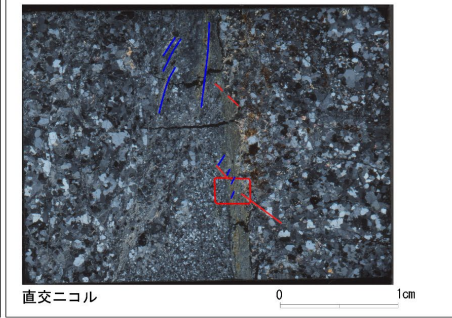
単ニコル



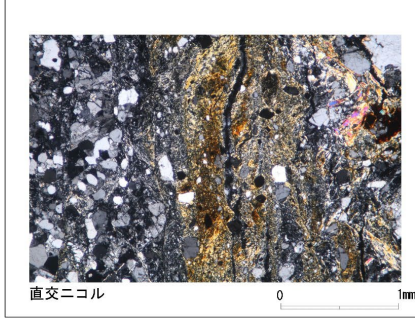
単ニコル



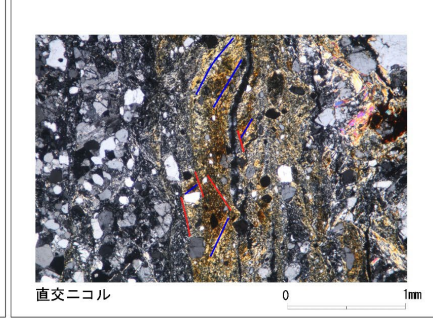
直交ニコル



直交ニコル



直交ニコル



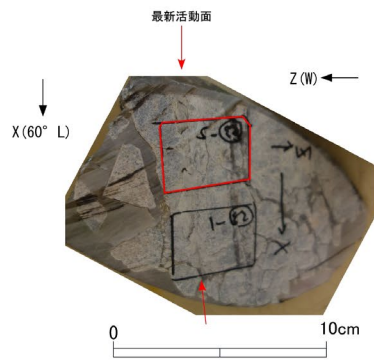
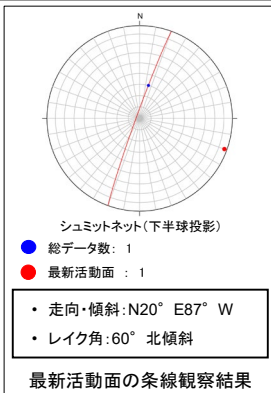
直交ニコル

- 凡例
- 断層ガウジ
- カタクレーサイト
- R1面
- P面

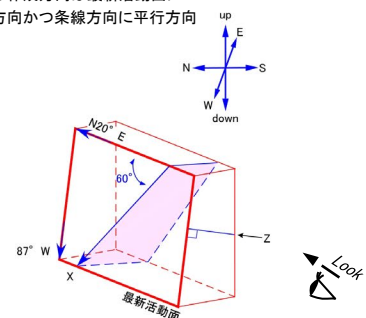
H27-B-3 深度119.11~119.25m D-1破砕帯

・H27-B-3のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度119.15m)の変位センスは、右ずれを伴う正断層である。

・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が多く認められることから、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)



薄片の作成方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向

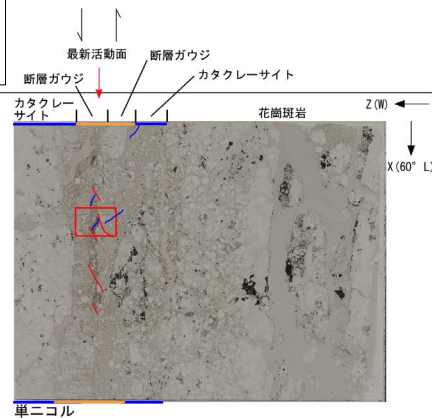
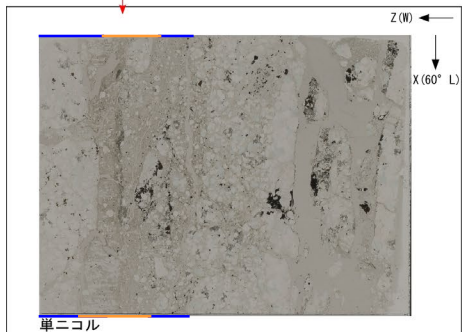


※切断面に記載されているZ方向は誤り
ブロックサンプル

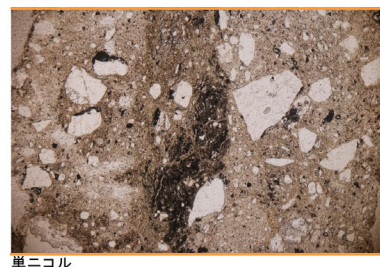
走向・傾斜 N20° E87° W

X: 条線方向(下向きを正とする)

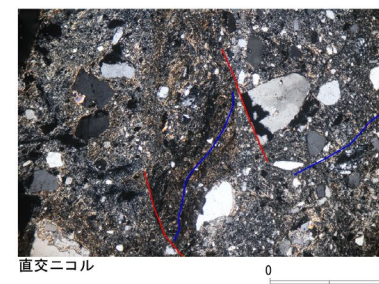
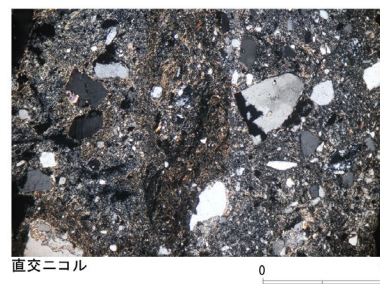
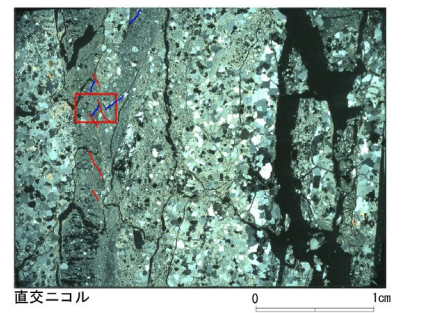
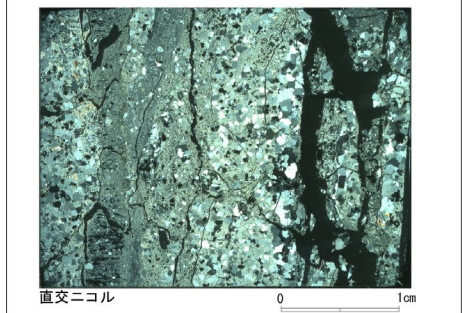
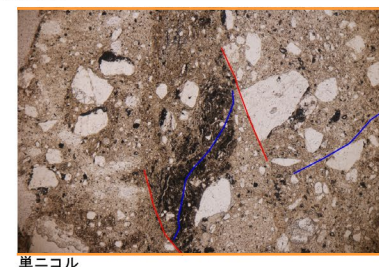
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)



赤枠内の拡大



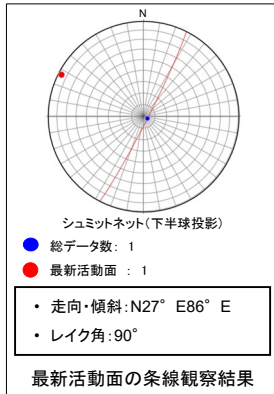
赤枠内の拡大



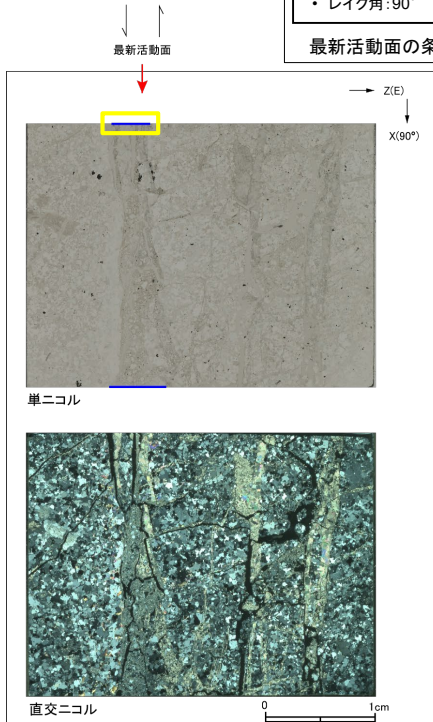
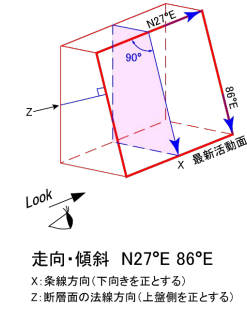
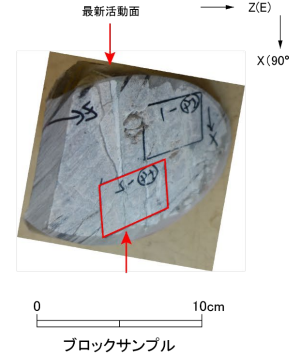
- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

H27-B-3 深度129.84~129.91m 非モデル化破砕部

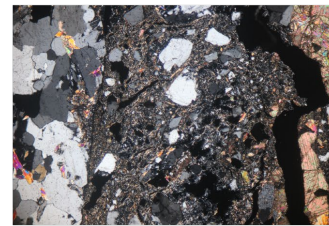
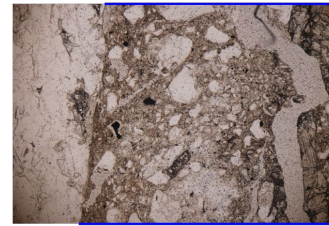
- H27-B-3のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度129.84m)の変位センスは、逆断層成分が卓越する。
- 薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が少なく、多様な粒径の岩片・鉱物片を細粒基質中に多く含むことから、カタクレーサイトのみからなる破砕部と判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)



薄片の作成方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向

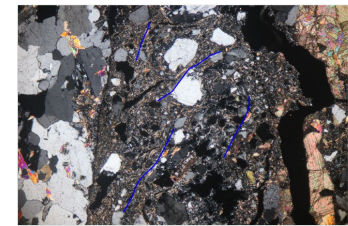
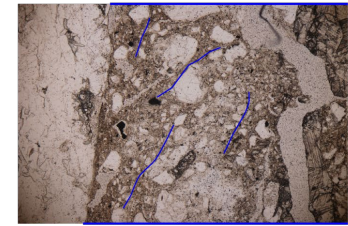


赤枠内の拡大



0 1mm

赤枠内の拡大



0 1mm

凡例

- 断層ガウジ
- カタクレーサイト
- R1面
- P面

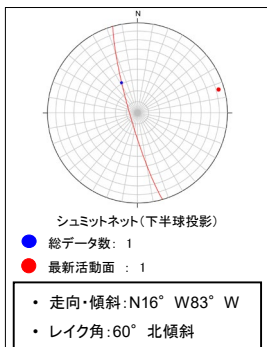
H27-B-4

余白

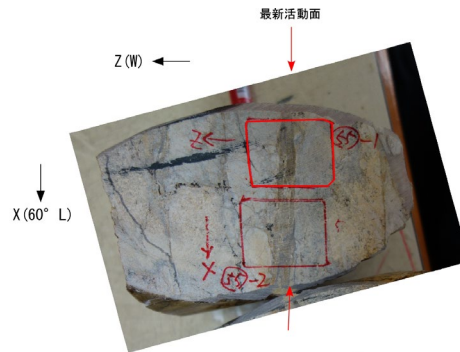
H27-B-4' 深度23.97~24.42m D-1破砕帯

・H27-B-4'のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度24.24m)の変位センスは、右ずれを伴う正断層である。

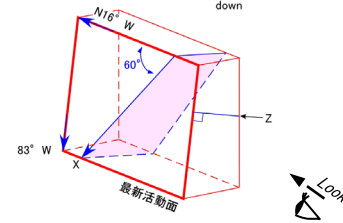
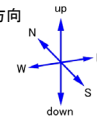
・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が多く認められることから、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)



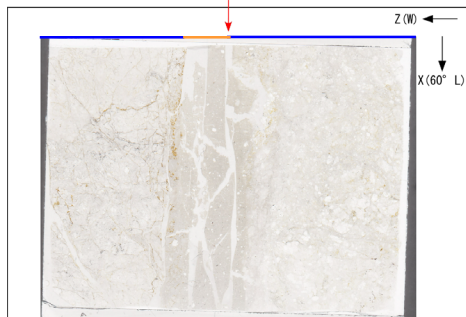
最新活動面の条線観察結果



薄片の作成方向は最新活動面に直交方向かつ条線方向に平行方向



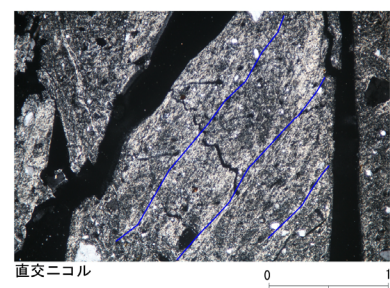
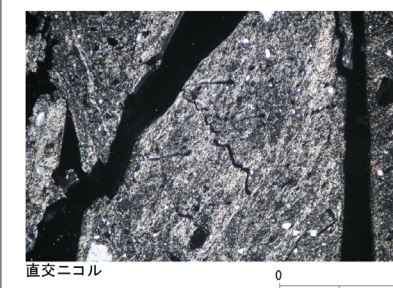
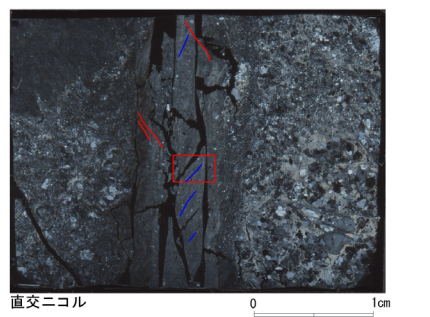
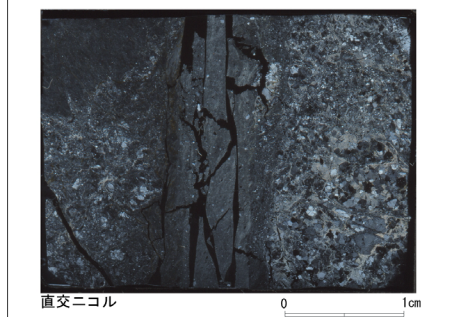
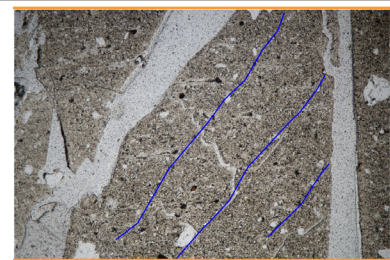
走向・傾斜 N16° W83° W
X: 条線方向(下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)



赤枠内の拡大



赤枠内の拡大

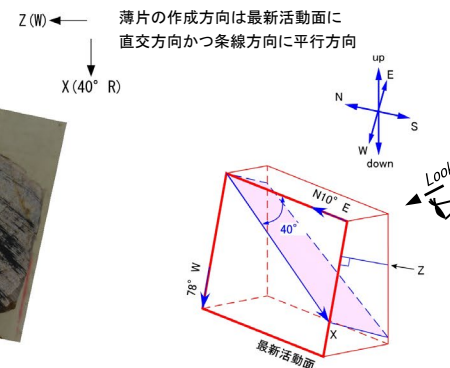
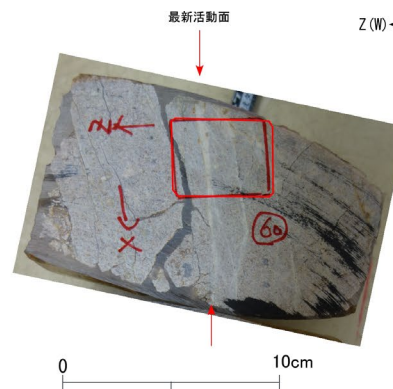
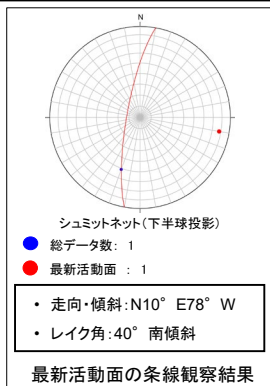


- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

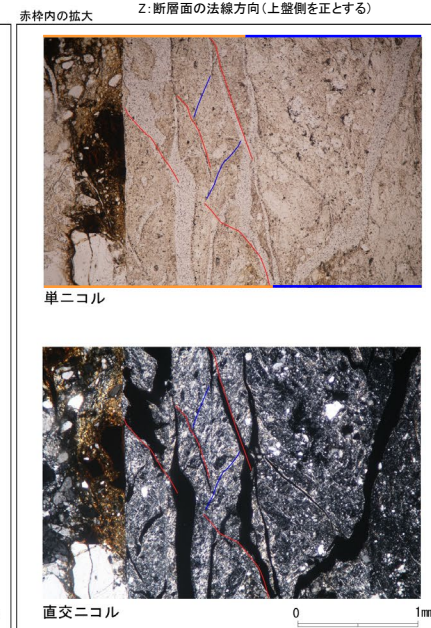
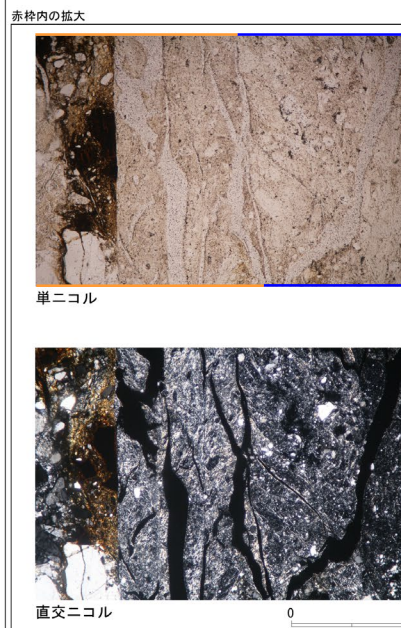
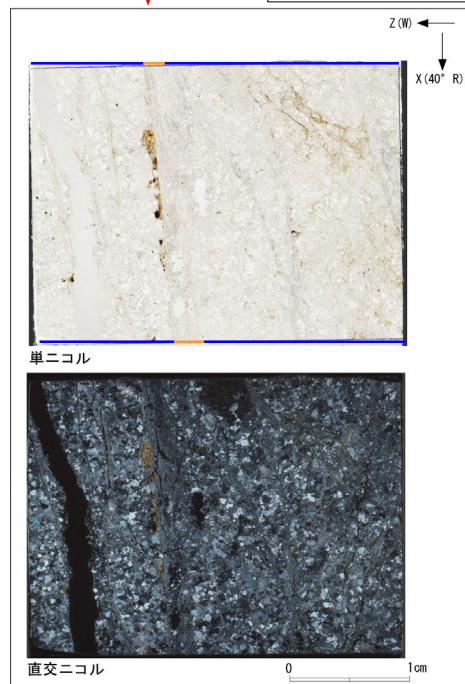
H27-B-4 深度93.13~93.22m H-7破碎帯

・H27-B-4のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度93.13m)の変位センスは、左ずれを伴う正断層である。

・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が多く認められることから、断層ガウジを伴う破碎部であると判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)



走向・傾斜 N10° E78° W
X: 条線方向(下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)



- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

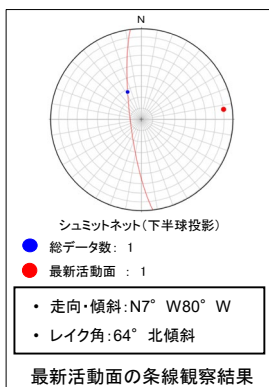
H24-D1-5

余白

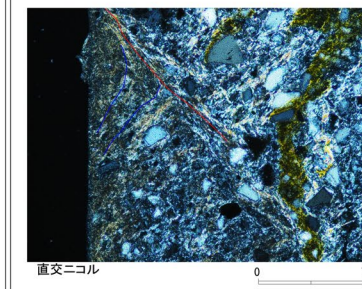
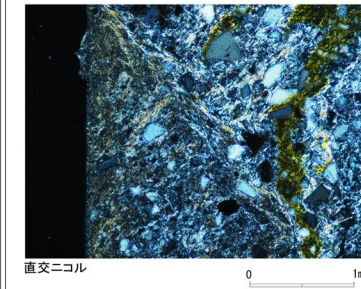
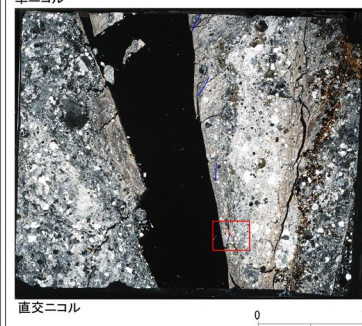
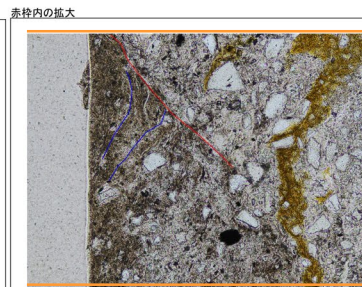
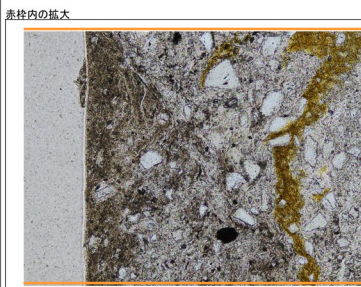
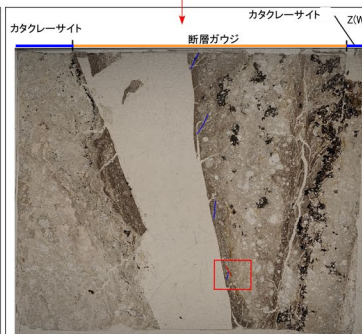
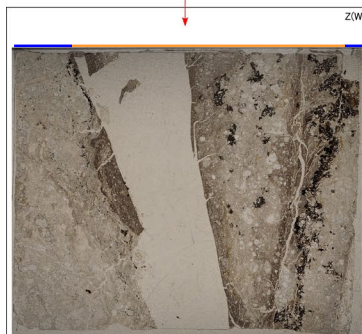
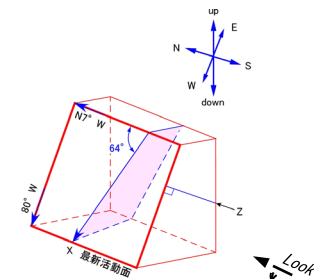
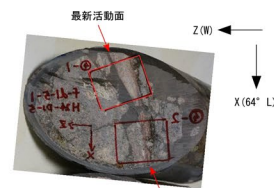
H24-D1-5 深度8.51~8.71m f-d1-5-1破砕帯

・H24-D1-5のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度8.70m)の変位センスは、右ずれを伴う正断層である。

・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が多く認められることから、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)



薄片の作成方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向

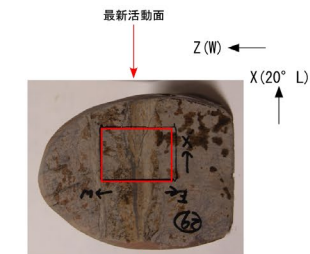
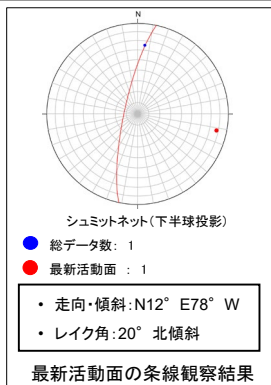


- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

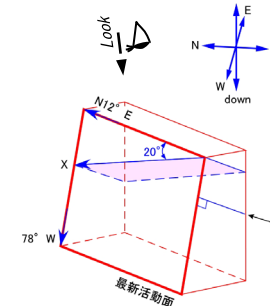
H24-D1-5 深度10.19~10.21m H-3d破砕帯

・H24-D1-5のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度10.21m)の変位センスは、左ずれ成分が卓越する。

・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が多く認められることから、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)



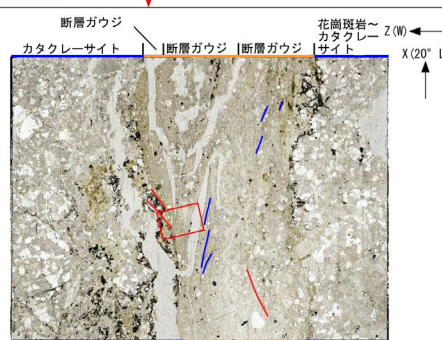
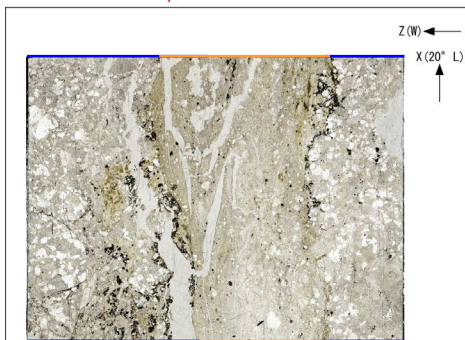
薄片の作成方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向



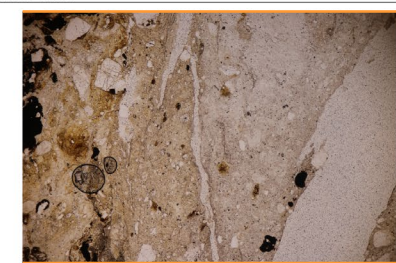
走向・傾斜 N12° E78° W

X: 条線方向(下向きを正とする)

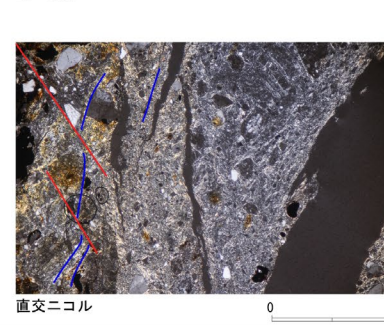
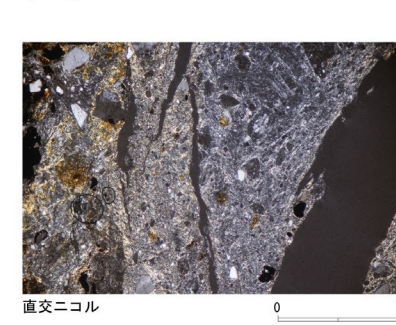
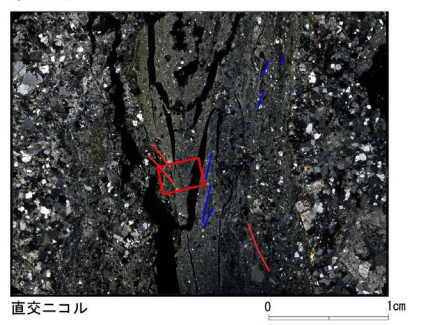
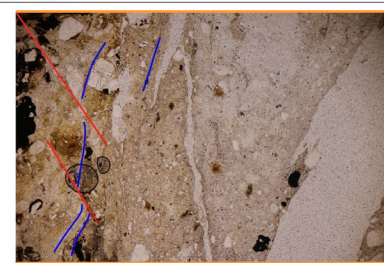
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)



赤枠内の拡大



赤枠内の拡大

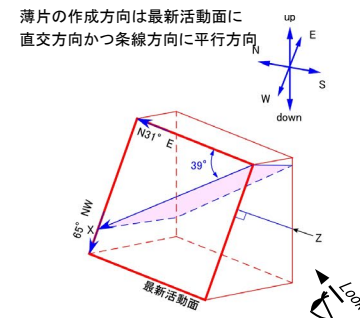
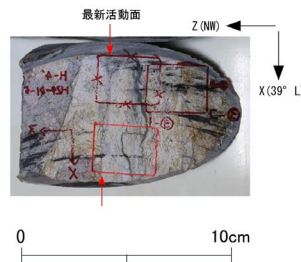
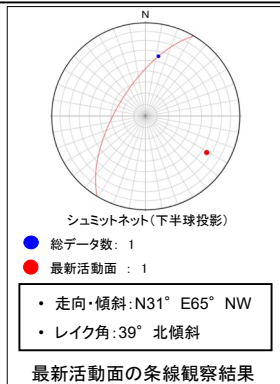


- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

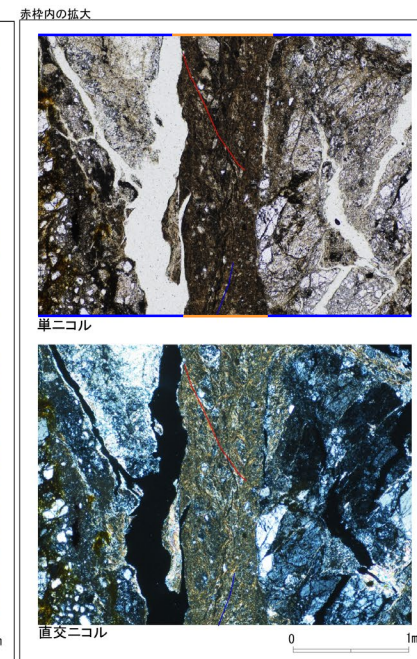
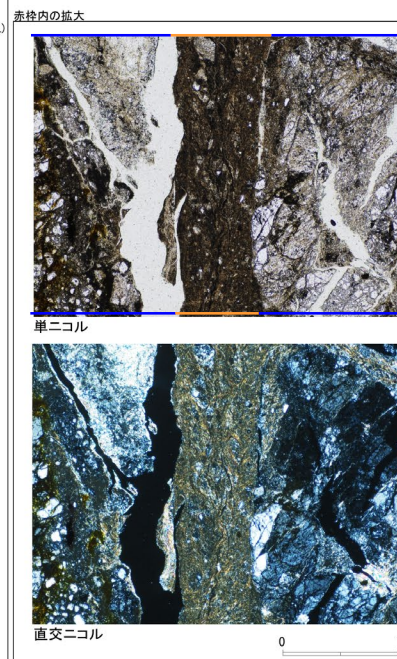
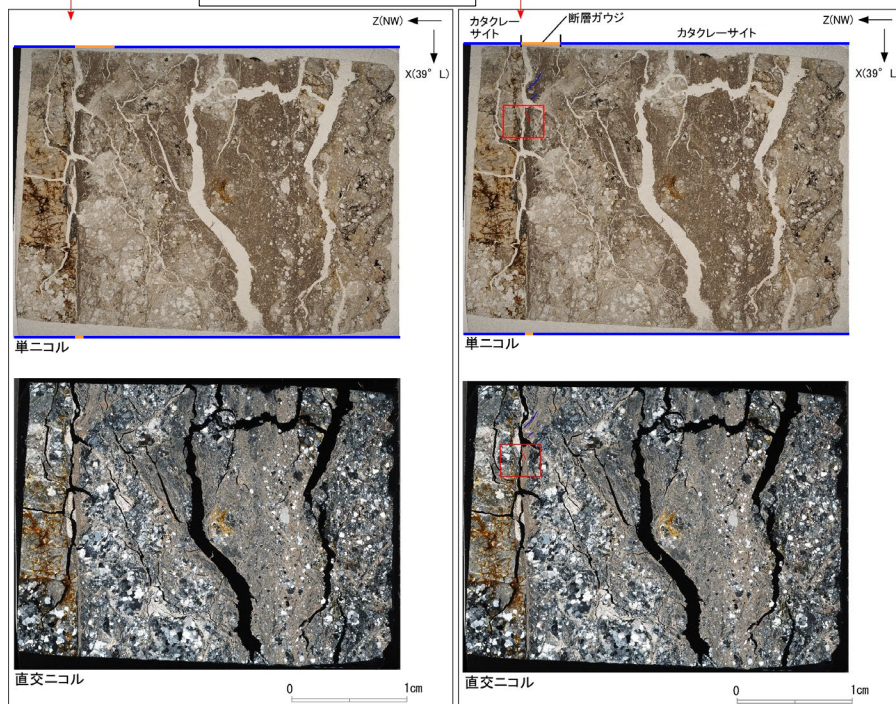
H24-D1-5 深度 10.45~10.50m H-4'破砕帯

・H24-D1-5のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度10.45m)の変位センスは、右ずれを伴う正断層である。

・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が多く認められることから、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)



ブロックサンプル

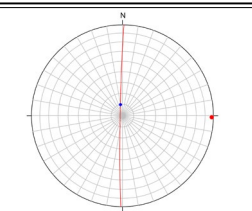


- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

H24-D1-5 深度47.47~47.89m D-1破砕帯

・H24-D1-5のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度47.47m)の変位センスは、正断層成分が卓越する。

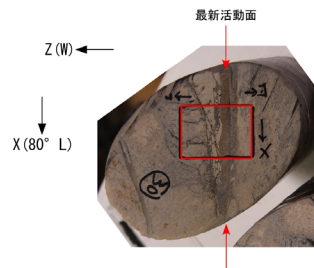
・薄片観察に基づく断層岩区分の評価を行った結果、最新活動面付近に基質を構成する粘土鉱物が多く認められることから、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。(追加した文献も踏まえても変更なし。)



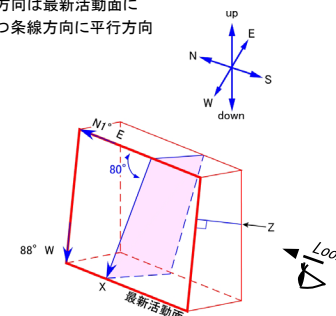
シュミットネット(下半球投影)
● 総データ数: 1
● 最新活動面: 1

- ・ 走向・傾斜: N1° E88° W
- ・ レイク角: 80° 北傾斜

最新活動面の条線観察結果



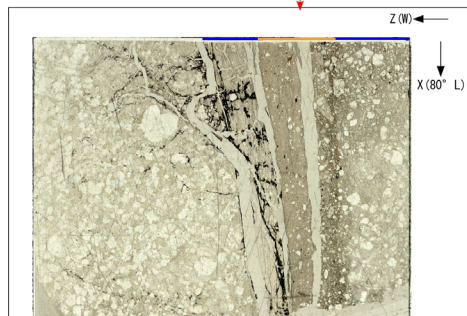
薄片の作成方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向



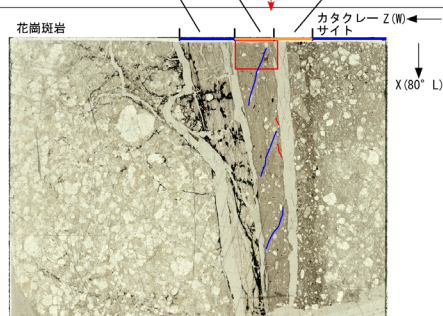
走向・傾斜 N1° E88° W

X: 条線方向(下向きを正とする)

Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)



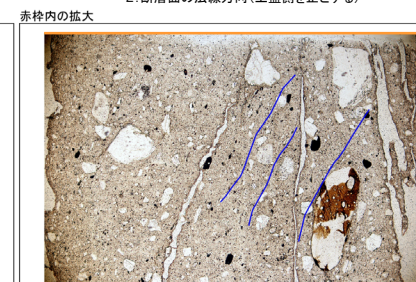
単ニコル



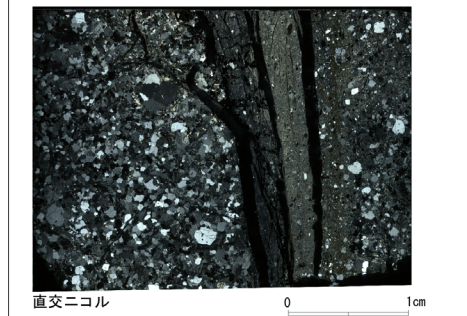
単ニコル



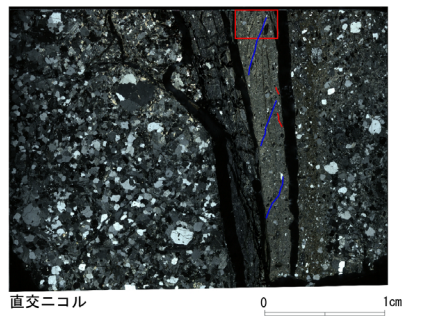
単ニコル



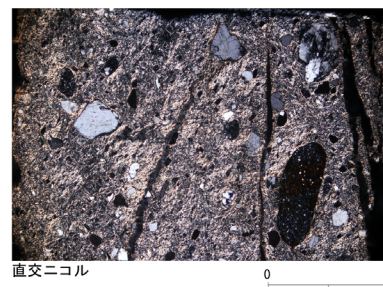
単ニコル



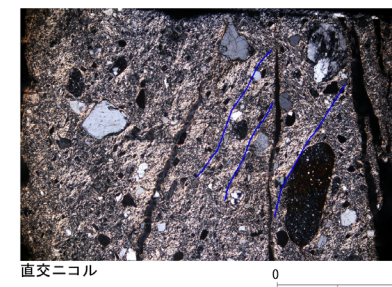
直交ニコル



直交ニコル



直交ニコル



直交ニコル

凡例

- 断層ガウジ
- カタクレーサイト
- R1面
- P面